

○事業所名	うたのこ		
○保護者評価実施期間	2025年1月15日		2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名(保護者 20名)	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2025年1月15日		2025年1月31日
○従業者評価有効回答数		9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月11日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが通所を楽しみにしてくれており、保護者の方々にも事業所の支援に満足してもらえていること。	まずは楽しく通ってもらえるよう、土曜や祝日に行うイベントの活動について、職員でミーティングを重ね、マンネリ化しないよう工夫している。	専門職(理学療法士・作業療法士)が揃っているので、より支援に目を向けて、子どもの思いや保護者のニーズに沿ったプログラムを行っていく。ただし楽しむという要素は必ず盛り込んでいく。
2	放課後等デイサービスと放課後児童クラブとの共生。	どのプログラムにおいても、分け隔てることなく、同じ活動と一緒にいるということを意識している。その中で特性に合った役割を与えるように工夫している。	現在在籍している子どもは下級生が多くを占めます。学年が上がることも意識も変わってくる中で、子どもたち主体で動けるようなプログラムを作成していく。
3	地域住民との交流の場を設けている。	地域イベントの日に合わせて事業所を開放し、夏祭りを行っている。近隣の飲食店とも協力し、地域の方に足を運んでいただき、子どもとの交流の場を設けている。	夏祭りだけでなく、清掃活動も行っているが、より地域の方に認知され、さらに深耕を深められるような活動を計画していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常災害訓練などの各種訓練や研修をしっかりと行っているにも関わらず、保護者への認知度が不十分である。	保護者への周知という部分で、事前事後の報告が不十分であると考えている。	訓練の行う前の告知や事後の報告などSNSやHUGなどをもっと活用して周知していくようにする。
2	保護者同士の交流の機会や親子参加イベントなどが年間を通して少ない。	親子イベントなど企画はしているが参加人数が少なく、参加してみようと思う内容になっていないのかもしれない。	アンケートや聞き取りなどを行い、求められているニーズを整理したうえで、どなたでも参加しやすい活動を計画していく。
3	保護者対応において、職員の印象が保護者によってばらつきがある。(子どもに対しても同じことが言える)	対応する職員によって、伝え方や言葉の選び方に差があるため、保護者によっては違ったニュアンスで捉えられたりしてしまう。	相手の気持ちに寄り添った言葉の選び方や聞き方などを社内・社外研修を通して学び、1人1人の対人スキル向上を目指す。